

# 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第4回高松市都市計画道路網検討委員会
開催日時	令和元年10月15日(火)
開催場所	高松市防災合同庁舎3階302会議室
議 題	(1) スケジュールの見直し、今後の進め方 (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	紀伊委員長、太田委員、岡田委員、西成委員、 荒金委員(代理横田委員)、生田委員、都村委員
オブザーバー	—
傍聴者	—
担当課及び連絡先	都市計画課 TEL: 087-839-2455

## 会議経過及び会議結果

議題(1)「スケジュールの見直し、今後の進め方」について事務局より説明。

### 【主な質疑・意見等】

(委員)

この検討委員会においては、大きな見直しとなるものという認識です。定性的な分析、評価だけでは説明責任を果たすことが困難であり、資料に定量的な分析評価が必要と赤字で書かれております。この定量的な分析について、何のデータを使い、どのような手法で定量分析を行うのかお聞かせください。パーソントリップ調査や、道路交通センサスは、何年に行われたものなのか、その他にも何年のどのようなデータを使って定量分析を行うかということについてお聞かせください。また、定量分析評価をするに当たって、予算規模がどれくらいのものになるのかお聞かせください。

(事務局)

まず、これまで分析に主に使用してございました道路交通センサスというのは、平成27年度に行われた道路交通情勢調査で、全国一斉に国道、県道、主要地方道の交通量を把握しているもので、そのデータを元に、これまで検証を行ってまいりました。ただ、これまでの検証はあくまでも道路の将来交通量や便益、コストに基づいた評価で、公共交通等の分析は入っていませんので、それだけをもって廃止、存続というのは説明責任としては不足しているのではないかと考えています。

どのようなデータを用いるかという点ですが、今私どもが考えておりますのが、これまで分析に使用していた27年度の道路交通センサスのデータに加え、平成24年に県が実施したパーソントリップ調査のデータを活用して改めてモデルを組んで、将来交通需要の予測をしていくということでございます。

予算規模については、どういう調査を行うかにもよりますが、1,000万～1,200万円程度のオーダーでの調査になるのではないかと考えているところでございます。

(委員)

端岡駅ですとか他にも交通結節点になり得る所があると思います。三条駅とか新駅、仏生山駅などは既に駅前広場を計画されていると思いますが、JRでは高德線で駅前広場があるのは栗林駅ぐらいしかないのではないかと思います。都市計画道路の一つとして駅前広場もあると思いますので拠点性を高める意味で、高德線への駅前広場の整備を是非再検討いただければと思います。それと、郊外部の道路を自転車道に変えた場合の交通需要についても検討をお願いします。

(事務局)

まず、結節点の話ですが、既存の駅、特に密集市街地にある駅に駅前広場を整備するという考えはなかなか難しいところもありますが、ここが結節拠点である方が良いと考えるような駅は、検討している所以外で、市内の3、4箇所想定しており、そういった駅前広場の周辺がどういうふうになればアクセスが良くなるのかについては、土地の問題も絡みますが、並行して考えていかなくてはならないと考えております。

次に、自転車道への転換については、特に郊外部における4車線で計画している道路についてでございますが、将来の交通需要を鑑みて結果として2車線となるところも、場合によっては出てくるかもしれませんが、道路空間の再配分という考えの下、2車線に減少しつつ自転車車が通れるような幅員を確保していくなどの考え方もありますので、そういう視点で検討してまいりたいと思っています。

(委員長)

冒頭ありましたように、定量的な分析、根拠に基づく政策判断をすることが今、いろいろなところで求められている中で、公共交通の施策を総合的に考えた上で都市計画道路についても見直しを検討するべきではないかというのが今回の目的としてありますので、今御質問いただいたことについて、少し時間はかかりますが、きちんと一年かけてやった方が良くはないかと思えます。国、県からも委員の方がいらっしゃっていますので、何か御意見ありましたらお願いいたします。

(委員)

高松市においては、ウォークアブルな街づくりを推進されておられると聞いておりますが、道路交通センサスやパーソントリップ調査のデータを用いて検討して頂く中で、都市計画の観点から、そういったところも検討していただけたらと思います。

(委員)

今後の検討方針の中に令和2年度調査概要が示されておりますが、次回の委員会までに、どこまで実施する予定ですか。

(事務局)

次回の委員会の開催を予定している来年7月頃には、業務委託の概要を決定の上、調査の方針などがお示しできると思います。

(委員)

JR 高徳線の駅前広場整備についての検討により、対象である街路の優先順位も上がり、連携して街路の整備方針を立てることができるのではと思っております。また、パーク&ライドで乗り換え時における、乗り換え抵抗など、設定が難しいところもあると思うので、モデルの構築の仕方などを十分に検討していただけたら良いと思います。

(委員)

例えば今後バスの路線の再編や交通結節拠点整備に向け、交通事業者と計画の整合性を図りながら進めていくと思いますが、現状として市として交通事業者と意見交換はされているのでしょうか。

(事務局)

現在、二つの琴電新駅について、交通結節拠点として整備を進めておりますが、事業者とは密に連携を図りながら計画を立てて進めているところでございます。

(事務局)

都市計画道路は、本市においてもかなり古い時代から私権に制限をかけておりますが、長期間の制限は見直していく方針を国から明確に出されていますので、私どもとしてはこの検討を契機として、責任をもって定量的な分析を行い、その後の手続きも2、3年かかる仕事にはなるとは思いますけれども、迅速にやっていきたいと考えております。

(結果)

原案のとおり決定

以上